

ニュータウンの移動課題解決と持続可能な地域交通モデルを目指す
宝塚市『中山台ニュータウン』でモビリティ実証実験を開始
新たなモビリティ「e-Palette」を活用し、地域内の移動×生活支援サービスを検証

2026 年 3 月、兵庫県宝塚市の『中山台ニュータウン』活性化に向けて設立された公民連携のまちづくり組織『中山台エリアプラットフォーム』（以下、中山台 APF）は、同ニュータウンにおいて、地域交通の維持・利便性向上とエリア活性化を目指したモビリティサービスの実証実験を、2026 年 10 月 8 日から開始します。

その最初の取り組みとして、さまざまなモビリティサービスに活用できるバッテリーEV「e-Palette（イーパレット）」（トヨタ自動車株式会社 開発・販売）を活用した実証実験を 11 月末まで実施します。将来的な自動運転導入も見据え、現在の買い物バスルートで試験運行を行うほか、移動販売や地域交流の場としての活用可能性も検証し、2028 年度より、地域に適した新たなモビリティサービスを段階的に実装していきます。



「e-Palette」車両



坂が多い『中山台ニュータウン』
（写真は中山台ファミリーセンター南側）

日本に約 2,000 カ所あるニュータウンで顕在化している少子高齢化や人口減少、施設の老朽化などの課題解決のため、パナソニック ホームズ株式会社（以下、パナソニック ホームズ）は、2025 年に『中山台ニュータウン』内の施設・用地を取得、宝塚市と包括連携協定を締結し、公民連携によるまちづくりを推進してきました。

2026 年 3 月には、企業や教育機関、地域団体などが参画する『中山台 APF』（代表幹事：パナソニック ホームズ、幹事会員：宝塚市）を設立し、地域課題の解決と新たな価値創出に取り組んでいます。

■モビリティ実証実験に取り組む背景

同ニュータウンには坂道が多く、住民ワークショップ・アンケートでは、高齢者を中心に、移動の負担に対する不安や、移動手段の確保・改善を求める声が多く寄せられています。これを踏まえ、『中山台 APF』が推進する 7 つのタウンサービス（ウェルネス・モビリティ・コンシェルジュ・コミュニティ・セーフティ・エネルギー・エコロジー）のうち、まずはモビリティ分野で、既存の公共交通を補完する新たな移動手段の導入を検討してきました。

本実証実験で使用する「e-Palette」は、移動手段に加え、移動販売や健康相談など、地域に寄り添った多様なサービスに活用できる車両です。『中山台 APF』一般会員企業であるネットヨタ神戸株式会社の協力のもと、本実証での活用が実現しました。今回の実証実験では、同車両が将来的な地域サービスの基盤となる可能性も見据えながら、現在買い物バスが運行するルートでの試験走行などを行い、走行適正や利用ニーズを検証します。ここで得られた知見をもとに、地域に適した移動サービスを段階的に検討していきます。

■モビリティサービス実現を目指した実証実験の概要・目的

買い物、送迎、通学など、住民の多様な利用ニーズに対応した移動サービスの提供を検討するとともに、地域内施設の交通資源を活用した持続可能なサービス体制の構築を進めます。公民連携によるまちづくりの強みを活かし、『中山台 APF』を組織する企業、団体、自治体等が連携して取り組みます。

目的① 持続可能な地域内交通モデルの検証

高齢化の進展やドライバー不足などの社会課題を見据え、既存の交通サービスと連携しながら、地域内交通の補完と持続可能な運行の可能性を検証します。なお、本取り組みは収益性の検証を主目的とするものではなく、地域住民の移動課題の解決に向けたサービスのあり方を検討するものです。

目的② 地域活性化とにぎわいの創出

モビリティを単なる移動手段としてではなく、移動販売や健康相談などの多目的利用を通じて、地域住民の交流促進や外出機会の拡大につなげるサービスとして活用し、地域コミュニティの活性化やまちのにぎわい創出への効果を検証します。

■10月8日に開始する「e-Palette」を活用した実証実験の概要

【主な実証実験：買い物バスの代替運行】

現在、『中山台ニュータウン』では、「中山台ファミリーセンター」(商業施設)とニュータウン内の各停留所を結ぶ買い物バス(着座定員 26 名)を、水曜日・土曜日を除き 1 日 13 便運行しています。本実証実験では、将来的な代替運行も見据え、坂道の多い地形や運行環境における「e-Palette」の適合性を確認するとともに、安全で快適な運行に向けた知見を蓄積します。

運行スケジュール	2026 年 10 月 8 日～11 月 26 日(週 1～2 回)
運 行 ル ー ト	現在の買い物バス 運行ルート
運 賃	無料
運 行 主 体	中山台APF
主 な 検 証 内 容	① 急坂や狭小道路における走行適性の確認 ② ルート走行における所要時間の計測 ③ 安全性および乗車快適性の評価 など



現在運行している買い物バス



現在の買い物バス 運行ルート(2 ルートで運行)

【その他の実証実験】

モビリティを起点とした生活支援サービスの展開についても検討します。具体的には、『中山台 APF』が推進するタウンサービスのうち、「ウェルネス（健康増進）」や「コンシェルジュ（買い物支援など）」との連携を見据え、一般会員企業であるプライム ライフ テクノロジーズ株式会社が企画・提案し、準会員企業 2 社とともにマルチユース型の実証実験を行います。

モビリティにヘルスケアや住民交流などのサービスを組み合わせることで、「e-Palette」を単なる移動手段にとどまらない地域サービスの基盤として活用し、地域課題の解決につながる新たなサービスモデルの構築を目指します。さらに、本実証実験で得られた知見やデータ、ノウハウを活かし、プライム ライフ テクノロジーズグループが全国で展開するまちづくり事業への導入や横展開を検討していきます。

例① 株式会社デンソーとの検証

スマートミラー（画面ディスプレイ機能や AI を備えた多機能鏡）を活用し、利用者同士や地域との接点を創出

例② 株式会社グリーンハウスとの検証

健康に配慮した食事の移動販売をはじめとする買い物支援等で住民の健康づくりを促進

■「e-Palette」について

トヨタ自動車株式会社が開発したモビリティサービス向けのバッテリーEV です。低床で広い車室空間と給電機能を備え、移動サービスに加え、物販やイベントスペースなど、用途に応じた柔軟な活用が可能です。

2025 年 9 月の発売以降、自治体や交通事業者を中心に導入が進んでおり、地域交通やシャトル運行などで活用されています。今後は自動運転技術との連携も見据え、地域交通や生活サービスの基盤として幅広い活用が期待されています。



大開口スライドドア



広々とした車内空間

定 員	17 名 (座席 7・立席 9・運転手 1)
全 長	4.95m
最 高 速 度	時速 80km
詳 細	https://toyota.jp/e-palette/

■モビリティサービス実現を目指した今後の動き

2028 年度以降は、基幹交通と連携しながら、ニュータウンに存在する交通資源の共同利用や事業者間の協業を推進し、地域内における移動課題の解決と持続可能な事業運営を目指します。高齢者だけでなく、子育て世代の買い物、送迎、通学など、多様な利用ニーズに対応した移動サービスの提供を検討するとともに、地域内の交通資源を活用した持続可能なサービス体制の構築を進めます。



■住民の意見を反映したモビリティサービスを検討

『中山台 APF』設立前の 2025 年 11 月から継続して実施している住民ワークショップでは、「坂道が多く、車がないと移動が不便」「車以外の交通手段がバスに限られ、買い物バスの便数も減少している」など、移動に関する意見が数多く寄せられています。2026 年 7 月には、モビリティに絞ったテーマで開催し、移動に関する悩みや、今後期待するサービスについて意見交換を行いました。

今後も、住民ニーズを継続的に把握しながら取り組みを進めていきます。



住民の声をまとめた
グラフィックレコーディング(一部)

■特別仕様のラッピングカー

実証実験では、ネットトヨタ神戸株式会社が展開する地域貢献・イベント活動ブランド「NetzKobeFam (ネット神戸Fam)」のロゴでラッピングした車両が走行します。さらに、『中山台 APF』会員企業である学校法人 雲雀丘学園が運営する雲雀丘学園幼稚園の園児たちが描いた車の絵を後部ガラスに掲出し、地域の子どもたちの参加による中山台ならではのデザインとしています。



ロゴをあしらったデザイン



後部ガラスには園児たちの絵も掲出

※画像はいずれもネットトヨタ神戸株式会社提供

■『中山台 APF』その他の活動状況

2026 年 3 月に設立した『中山台 APF』では、『中山台ニュータウン』の活性化に向け、施設のリニューアルや住民ワークショップの開催、タウンサービスの検討など、さまざまな取り組みを進めてきました。これまでに定例会議を 3 回開催し、地域課題の共有や解決策の検討を行っています。

今後は、「拠点」「住まい」「移動」「暮らし」の 4 つのテーマを軸に、「モビリティ部会」「空間活用部会」「中山台キャンパス部会」の 3 つの部会を立ち上げ、具体的な取り組みを推進していく予定です。

モビリティ部会	: 地域交通の充実や移動サービスの実装に向けた検討を推進
空間活用部会	: 空き店舗や遊休空間を活用した交流拠点やマルシェなどを企画
中山台キャンパス部会	: 住民ニーズや関心を把握し、学びや交流を通じて地域コミュニティを活性化

2027 年度以降は、各部会の取り組みを相互に連携させることで、移動サービスに加え、買い物支援や健康増進、交流機会の創出など、多様なタウンサービスの実現を目指します。今後も、住民の暮らしの質の向上を起点に、会員企業や地域団体との連携を深めながら、多様なタウンサービスの創出と持続可能なまちづくりに取り組んでいきます。

◎2026年3月30日発信 プレスリリース(パナソニック ホームズ株式会社・兵庫県宝塚市・中山台APF)
宝塚市『中山台ニュータウン』における公民連携のまちづくり
自治体・企業・地域の協働でエリアプラットフォームを設立
<https://homes.panasonic.com/company/news/release/2026/0330.html>

◎2025 年 10 月 2 日発信 プレスリリース(パナソニック ホームズ株式会社)
『中山台ニュータウン』での公民連携による付加価値創出型再生事業の推進について
兵庫県宝塚市とパナソニック ホームズが包括連携協定を締結
<https://homes.panasonic.com/company/news/release/2025/1002.html>

◎2025 年 7 月 23 日発信 プレスリリース

■ パナソニック ホームズ株式会社
兵庫県宝塚市『中山台ニュータウン』において
公民連携による付加価値創出型ニュータウン再生事業をスタート
<https://homes.panasonic.com/company/news/release/2025/0723.html>

■ 兵庫県宝塚市
公民連携による「中山台ニュータウン」再生事業を推進します
https://www.city.takarazuka.hyogo.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/059/080/r707_1-1.pdf

* 本件に関するお問い合わせ先 *

■パナソニック ホームズ株式会社 宣伝・広報部 澗随(かんずい)・相澤・川原
澗随 携帯:080-8544-4376 / E-mail:kanzui.naho@panasonic-homes.com
相澤 携帯:080-7515-6016 / E-mail:aizawa.masako@panasonic-homes.com
川原 携帯:080-2107-8588 / E-mail:kawahara.mai@panasonic-homes.com
HP: <https://homes.panasonic.com/company/news/release>

■宝塚市 企画経営部 古林(こばやし)
電話:0797-77-2001(直通) / E-mail:kenji-kobayashi@city.takarazuka.lg.jp
HP: <https://www.city.takarazuka.hyogo.jp/>

■ネットヨタ神戸株式会社 みらい創造事業担当 岡崎
携帯:080-6220-7238 / E-mail:hidenori-okazaki@netzkobe.co.jp

『中山台 APF』の構成（※2026 年 9 月末時点／敬称略・五十音順）

会 員	： 代表幹事	パナソニック ホームズ株式会社
	： 幹事会員	兵庫県宝塚市
	： 一般会員	株式会社池田泉州銀行、医療健康アセット協創コンソーシアム With.C.、 株式会社エヌ・エス・アイ、生活協同組合コープこうべ、 社会福祉法人 晋栄福祉会 中山ちどり、株式会社ティップネス、 独立行政法人 都市再生機構(UR都市機構)、ネッツトヨタ神戸株式会社、 学校法人 雲雀丘学園、プライム ライフ テクノロジーズ株式会社、 三井住友信託銀行株式会社、武庫川女子大学
	： 準会員	エーテルケア株式会社、株式会社グリーンハウス、株式会社スペース、 宝塚中山桜台郵便局、宝塚中山五月台郵便局、DX通信株式会社、 株式会社デンソー、西尾レントオール株式会社、株式会社乃村工藝社、 阪急タクシー株式会社、社会福祉法人 福祥福祉会、株式会社フクユ、 株式会社macoto.creative、三井住友海上火災保険株式会社、 株式会社宮本工業、MONET Technologies株式会社、株式会社ユニクシー、 株式会社類設計室、株式会社ルネサンス、YKK AP株式会社 関西支社
	： オブザーバー	一般社団法人いしばしコモンズ、兵庫県立宝塚東高等学校
	： アドバイザー	株式会社クラレ、武庫川女子大学教授 三好 庸隆
事務局	： パナソニック ホームズ株式会社	